

NEC

WebOTX Media V10 Release 8(DVD)

UL4021-T1T

インストールガイド(Linux)

# ごあいさつ

このたびは、WebOTX Media V10 Release 8 (以下WebOTX メディアと表記します)をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、お買い上げいただいたセットの内容の確認、DVD-Rに含まれるプロダクトの内容と一部製品のインストールの内容を中心に構成されていますWebOTX メディアをお使いになる前に、必ずお読み下さい。

WebOTX は、日本電気株式会社の登録商標です。

Windows は、米国あるいはその他の国における米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標もしくは商標です。

HP は、米国 Hewlett Packard Enterprise 社の商標または登録商標です。

Adobe および Reader は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

CORBA は、米国 Object Management Group, Inc. の米国またはその他の国における商標または登録商標です。

Kubernetes は、The Linux Foundation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Eclipse は米国およびその他の国における Eclipse Foundation, Inc. の商標もしくは登録商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation  
(<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit.  
(<http://www.openssl.org/>).

Docker and Docker logo are trademarks or registered trademarks of Docker, Inc. in the United States and/or other countries. Docker, Inc. and other parties may also have trademark rights in other terms used herein.

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

# 目次

1. はじめに .....	1
2. パッケージ格納ディレクトリ .....	2
3. マニュアルのインストール方法 .....	3
4. マニュアルのアンインストール方法 .....	6
5. WebOTX Clientの動作環境 .....	7
5.1. ソフトウェア条件について .....	7
5.1.1. オペレーティング・システム .....	7
5.1.2. 必要なソフトウェア .....	7
5.2. 複数バージョンインストール .....	8
5.3. リソース .....	9
6. WebOTX Clientのインストール .....	10
6.1. インストール前の作業 .....	10
6.1.1. JDKのインストール .....	10
6.1.2. WebOTX運用管理ユーザのアカウント作成 .....	10
6.1.3. WebサーバとWebコンテナとの連携について .....	10
6.1.4. 複数バージョンインストールを行う場合の注意 .....	11
6.2. インストール .....	11
6.3. 環境構築 .....	15
7. WebOTX Clientのサイレントインストール .....	19
7.1. 設定ファイルの作成 .....	19
7.2. 設定ファイルの確認 .....	19
7.3. サイレントインストールの実行 .....	20
7.4. 設定ファイルのプロパティ一覧 .....	22
8. WebOTX Clientのアンインストール .....	24
8.1. アンインストール前の作業 .....	24
8.2. アンインストール .....	24
8.3. アンインストール後の作業 .....	26
8.3.1. 定義情報のファイル削除 .....	26
8.3.2. Webコンテナと外部Webサーバとの連携の設定解除 .....	27
9. インストーラ圧縮ファイル .....	28
10. 注意・制限事項 .....	31

## 1. はじめに

このメディアには、Linux(x64)プラットフォーム用のWebOTX製品(以下、WebOTX)のバージョン10.4 (またはバージョン10.3、バージョン10.3) の各製品が含まれています。

収録製品名	型番
WebOTX Application Server Express V10.4 Processor License	UL1519-T2T (*1)
WebOTX Application Server Express V10.4 Processor License for Container	UL1519-T9T (*2)
WebOTX Application Server Standard V10.4 Processor License	UL1519-T0K (*3)
WebOTX Application Server Standard V10.4 Processor License for Container	UL4021-B68 (*4)
WebOTX Operator for Kubernetes V10.4	UL4021-10AG(*5)
WebOTX OLF/TP Adapter V10.2(4)	UL4021-80M(*6)
WebOTX Enterprise Service Bus V10.3	UL4021-A0S(*6)
WebOTX Portal V10.4	UL4021-50AD

\*1 物理サーバ/仮想マシン向けライセンス製品。WebOTX AS Expressのフルプロファイル(Windows/Linux)またはマイクロサービスプロファイル(Windows/Linux)を物理サーバ/仮想マシンで利用可能。

\*2 コンテナ向けライセンス製品。WebOTX AS Expressのフルプロファイル(Windows/Linux)またはマイクロサービスプロファイル(Linuxのみ)をコンテナで利用可能。

\*3 物理サーバ/仮想マシン向けライセンス製品。

\*4 コンテナ向けライセンス製品。Linux(x64)のみサポート。

\*5 コンテナ向け運用管理製品

\*6 WebOTX Application Server V10.4に対応

これらの製品を使用するためには、それぞれの製品に応じたライセンスが必要です。これらの製品を使用するための「WebOTX マニュアル」や「WebOTX Client」はライセンスが無くてもインストールすることができます。「WebOTX マニュアル」のインストール方法は「3 マニュアルのインストール方法」、「WebOTX Client」のインストール方法は「6 WebOTX Clientのインストール】を参照して下さい。

## 2. パッケージ格納ディレクトリ

DVD-R メディアに含まれるパッケージの格納ディレクトリは次のとおりです。

### Linux(x64)

DVD-ROM #1	メディア内の格納位置
インストールスクリプト	WOINST.SH
インストーラ圧縮ファイル作成スクリプト	WOMKTGZ.SH
アンインストール・スクリプト(*1)	wouninst.sh, uninst-info.properties
WebOTX Utility	/OTXUTIL/LINUX/OTX104UTIL-10.40.00.00-1.x86_64.rpm
CORBA通信基盤	/OBJBRO/LINUX/OSPI124RUN-12.40.00.00-1.x86_64.rpm
WebOTX実行環境	/OTXSRV/LINUX/OTX104SRV-10.40.00.00-1.x86_64.rpm
Javaベースライブラリ	/OTXBSJC/LINUX/OTX104BSJC-10.40.00.00-1.x86_64.rpm
Javaベースライブラリサーバプラス	/OTXBSJS/LINUX/OTX104BSJS-10.40.00.00-1.x86_64.rpm
SSL信用用パッケージ(IIOP信用用)	/OTXSSL/LINUX/OTX104SSL-1.1.1.i-1.x86_64.rpm
WebOTX Webサーバ2.4 (*2)	/WEBSV/LINUX/OTX104WEBSV24-2.40.46.00-1.x86_64.rpm
OLF/TP Adapter	/OLFTPRUN/LINUX/OLFTPRUN-10.22.00.00-1.x86_64.rpm, ADPTINST.SH, ADPTUNIN.SH
Enterprise Service Bus	/OTXESB/LINUX/OTX104ESBCL-10.30.00.00-1.noarch.rpm, OTX104ESB-10.30.00.00-1.noarch.rpm
Portal	/OTXPORTAL/LINUX/OTX104PORTALCL-10.40.00.00-1.noarch.rpm, OTX104PORTAL-10.40.00.00-1.noarch.rpm, PTINST.SH
WebOTX Application Server Express for Container フルプロファイル版 WebOTX Application Server Standard for Container (*4)	/OTXCNT/LINUX/ OTXCNT-10.40.00.00.tar.gz, prepare-to-build-image.sh, validate-image-build-environment.sh
WebOTX Application Server Express / WebOTX Application Server Express for Container マイクロサービスプロファイル版 (*5)	/OTXMSP/LINUX/ OTXMSP-10.40.00.00.tar.gz, add-ms-profile-license.sh
WebOTX Operator for Kubernetes	/OTXOPE/LINUX/OTXOPE-10.40.00.00.tar.gz, install.sh
Java™ SE Development Kit 8, Update 202 (*3)	/JDK/LINUX/jdk-8u202-linux-x64.rpm, jdk-8u202-linux-x64.tar.gz

LINUX クライアント(x64)	
Javaベースライブラリ	/OTXBSJC/LINUX/OTX104BSJC-10.40.00.00-1.x86_64.rpm
Enterprise Service Busライブラリ	/OTXESB/LINUX/OTX104ESBCL-10.30.00.00-1.noarch.rpm
Portal クライアント	/OTXPORTAL/LINUX/OTX104PORTALCL-10.40.00.00-1.noarch.rpm
Windows クライアント	
Windows クライアントインストーラ	/CLIENT/WIN/*
Windows(x64) クライアント	
Windows クライアントインストーラ	/CLIENT/WIN_x64/*
マニュアル	メディア内の格納位置
WebOTX マニュアル	/WODOC/LINUX/DOC104J01.TGZ,PDF104J01.TGZ

\*1 Linux(x64)のクライアントのアンインストール時に使用します。

\*2 WebOTX Application Server には Apache HTTP Server 2.40.46 相当がバンドルされています。

\*3 Linux(x64) プラットフォーム用

\*4 WebOTX Application Server Express のフルプロファイル版または WebOTX Application Server Standard を Docker コンテナ上で利用するためのスクリプト等を提供します。 詳細に関しては製品に添付されている WebOTX Application Server Express for Container または WebOTX Application Server Standard for Container のインストールガイド(Linux)を参照してください。

\*5 WebOTX Application Server Express のマイクロサービスプロファイル版です。 詳細は製品に添付されている WebOTX Application Server Express マイクロサービスプロファイル編 または WebOTX Application Server Express for Container のインストールガイド(Linux)を参照してください。

### 3. マニュアルのインストール方法

マニュアルのインストール手順は次のとおりです。

1. ログイン名 root でログインします。

```
login: root
```

2. マシンのDVD-ROM ドライブに WebOTX メディアを挿入し DVD-ROM ドライブをマウントします。自動的にマウントされない場合には次のコマンドでマウントしてください。

```
root> cd /
root> mount -t iso9660 /dev/cdrom /media/cdrom
```

3. DVD-ROM のマウント・ポイント・ディレクトリへ移動してください。

```
root> cd /media/cdrom
```

4. インストールスクリプトを起動してください。

**root> ./WOINST.SH**

5. スクリプトの指示にしたがって、インストールする製品を選択してください。

**Please select one of the following WebOTX V10.4 products  
or enter "A" for additional installation of the installed product.**

- 1. WebOTX Application Server Express
- 2. WebOTX Application Server Standard
- 3. WebOTX Client
- 4. WebOTX Manual
- A. Additional installation menu of the installed product
- C. Install Cancel

マニュアルの場合、「4」を選択します。

6. インストールするWebOTX マニュアルの言語を選択します。

- 1. WebOTX Manual (Japanese)
- 99. Install Cancel

「1」を選択します。

7. デフォルト設定でインストールを行うかの選択を行います。

**Would you like to install by default? (Default: y)  
If you want to configure the installation in detail, please enter 'n'.**

デフォルト設定でインストールする場合は「y」を選択してください。インストールオプションを選択しながらインストールする場合は「n」を選択してください。

デフォルト設定でのインストールを選択した場合、手順(11)のインストール開始確認に進んでください。

8. html版WebOTX マニュアルのインストールを選択してください。

**You may install WebOTX Manual on your computer.  
Would you like to install it? [y, n] (Default: y)**

インストールする場合は「y」を、インストールしない場合は「n」を入力します。  
デフォルトの場合、インストールします。

9. 次の同様の手順で、PDF版マニュアルのインストールを選択します。

**Would you like to install PDF Manual? [y, n] (Default: n)**

インストールする場合は「y」を、インストールしない場合は「n」を入力します。

デフォルトの場合、インストールは行いません。

10. WebOTX マニュアルのインストール先(展開先)を入力します。

**Please enter the install directory name. (Default: /opt/WebOTX)**

インストール先(展開先)を変更する場合は、インストール先のフォルダ名を入力します。

デフォルトの場合、そのまま続けます。

**/xxx/yyy/Manual does not exist.**

**Would you like to make the directory? [y, n] (Default: y)**

インストール先として指定したディレクトリが存在しない場合、ディレクトリ作成確認の画面が表示されます。

作成する場合は「y」を、作成しない場合は「n」を入力してください。

作成しない場合、WebOTX マニュアルのインストール先の確認画面が再度表示されます。

11. 選択が完了するとインストール開始確認が表示されます。

**It will be installed with the following settings**

**Selected Product Name : WebOTX Manual**

**Install WebOTX Manual (html) : y**

**Install WebOTX Manual (PDF) : n**

**Install directory name : /opt/WebOTX**

**Make the directory if "/opt/WebOTX" does not exist : y**

**\*\*\*\*\***

**\* Installation of WebOTX V10.4 on your computer. To continue, enter y. \***

**\* Enter q to exit the installation. [y, q] (Default: y) \***

**\*\*\*\*\***

設定を確認して問題ない場合、インストールを開始するため「y」を入力してください。 キャンセルするには「q」を入力してください。

キャンセルした場合はインストールスクリプトが終了します。 再実行する場合は手順(4)のインストールスクリプトの実行からやり直してください。

12. マニュアルがインストールされます。

13. DVD-ROM をアンマウントします。

```
root> cd /
root> umount /media/cdrom
```

#### 4. マニュアルのアンインストール方法

マニュアルのアンインストールを行う場合は、マニュアルをインストールした次のフォルダを、`rm -fR` コマンド等を利用して直接削除します。

`/opt/WebOTX/Manual/V104/`

インストール時にインストール先(展開先)を変更した場合、インストール先(展開先)の **Manual/V104** フォルダを削除してください。

## 5. WebOTX Clientの動作環境

本章では、WebOTX Clientを利用するためには必要な条件について説明します。

### 5.1. ソフトウェア条件について

本製品がサポートするオペレーティング・システム(OS)とプロセッサ、および利用するために必要な関連ソフトウェアについて説明します。

#### 5.1.1. オペレーティング・システム

動作対象であるオペレーティング・システムとプロセッサ・アーキテクチャの対応を以下に示します。

##### ● Linux

アーキテクチャ	オペレーティング・システム
x64	Red Hat Enterprise Linux 8 Server (8.1以降) (*1) Red Hat Enterprise Linux 7 Server (7.1以降) (*1) Oracle Linux 8 (Red Hat Compatible Kernel) (8.1以降)(*1,2,3) Oracle Linux 7 (Red Hat Compatible Kernel) (7.7以降) (*1,2,3)

(\*1) SELinux有効化をサポート

(\*2) カーネルはRed Hat Compatible Kernelのみサポート

(\*3) Oracle JDK 8/11のみサポート

#### 5.1.2. 必要なソフトウェア

##### ● Java SDK

WebOTXシステムは、実行時にJava™ Platform, Standard EditionのSDKを必要とします。サポートするSDKバージョンは以下のとおりです。

- Oracle Java SE Development Kit 8 (Update 202 以降)
- Oracle Java SE Development Kit 11 (11.0.10 以降) LTS版(※1)
- OpenJDK 8 (Update 201 以降) (※2)
- OpenJDK 11 (11.0.10 以降) (※2)

(※1) Java SE Subscription(有償)契約ユーザのみ取得可能

(※2) Red Hat リリース版をサポート

##### 【注意事項】

・WebOTX製品は、Linuxに対応したOracle社製のJava SDKをバンドルしていますが、Java SDK自体の保守は行っていませんので、ご了承ください。

- ・ Red Hat リリースのOpenJDK 11が正式対応しているRed Hat Enterprise Linux 7は、7.6以降です。
- ・ Red Hat Enterprise Linux 8でOracle JDK 8を利用する場合はUpdate 221 以降、OpenJDK 8を利用する場合はUpdate 222以降を対象とします。
- ・ Oracle Linux 8でOracle JDK 8を利用する場合はUpdate 221 以降を対象とします。

## 5.2. 複数バージョンインストール

WebOTX V9.3からLinux版において、ひとつのOSへ複数バージョンをインストールすることが可能になりました。このインストール条件は、製品のメジャーバージョンとマイナーバージョンが異なることです。

(例) 「WebOTX Client V9.2」と「WebOTX Client V10.1」

さらに、V9.2まではインストール・ベースディレクトリ(\*)は「/opt」固定でしたが、V9.3以降はインストール時に変更できます。

(※) パッケージ(RPM、あるいはデボ)のインストール時に起点として使用するディレクトリ

そのため、1つのバージョンの製品を異なるインストール・ベースディレクトリにインストールすることは不可です。また、リリース時期により詳細バージョンが異なる場合もサポートされません。

(例) 「10.10.00.000」と「10.11.00.00」

このバージョン番号は、WebOTX運用管理コマンド「otxadmin」で確認できます。

複数バージョンインストールに対応している製品は以下のとおりです。(製品バージョンは省略)

- WebOTX Application Server Express
- WebOTX Application Server Standard
- WebOTX Application Server Enterprise (※)
- WebOTX Developer (※)
- WebOTX Administrator (※)
- WebOTX Client
- WebOTX Enterprise Service Bus

(※) V10.1以降の製品出荷はありません。

上記の製品とそれ以外のWebOTX製品を同時にインストールする場合は、インストール・ベースディレクトリを「/opt」にしなければなりません。この場合、異なるバージョンの上記製品をインストールすることはできません。

また、インストール・ベースディレクトリを「/opt」以外に変更する場合、上記に記載されている製品のみ追加インストール可能です。この場合、複数バージョンインストールに未対応の製品は、追加インストールできません。

本バージョンの複数バージョンインストールの共存対象バージョンは、2つ前のメジャーバージョン、かつ本バージョンが諸元としてサポートしているOSの範囲内です。

OS	WebOTXバージョン				備考
	V7以前	V8	V9	V10	
Linux	対象外	対象外	V9.3～ 9.4(*)	V10.1～ 10.3	RHEL 7はV9.3でサポート

以下にインストール・ベースディレクトリを「/opt」に固定化した場合と任意のディレクトリでインストールした場合の構成を示します。

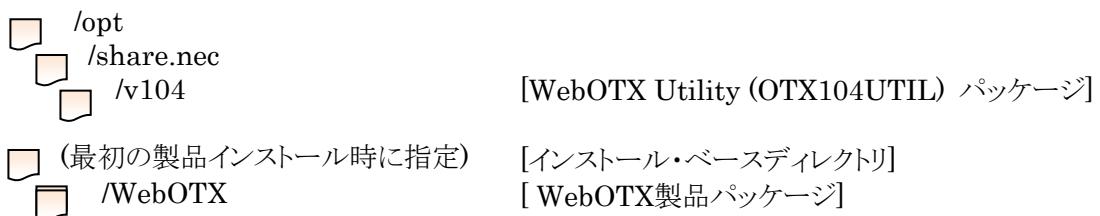
#### [インストール・ベースディレクトリとして /opt を使用する場合]

これは、WebOTX V9.2以前の構成と同じです。



#### [インストール・ベースディレクトリとして /opt 以外を使用する場合]

製品インストール後のディレクトリ構成は以下のようになります。



### 5.3. リソース

本章では、WebOTX Clientをインストールするために必要な固定ディスク空き容量と必要なメモリ容量について説明します。

ハードディスク容量は、JDKなどの関連ソフトウェアのディスク消費量は含まれていません。

リソース	必要条件
メモリ	最小 256 MB、推奨 512 MB 以上
ハード ディスク	130 MB 以上

## 6. WebOTX Clientのインストール

本章では、WebOTX Clientのインストール方法について説明します。

V10からインストールと環境構築の連続実行と分離実行を選択することが可能となりました。

### 6.1. インストール前の作業

インストールを行う前に確認しておくべき事項、ならびに実施しなければならない作業について説明します。

#### 6.1.1. JDKのインストール

WebOTXのインストールは、Javaを使ってセットアップが行われます。したがって、WebOTXをインストールする前にJDKがインストール済みかを確認してください。JDKがまだインストールされていない場合は、必ずWebOTXインストール前にJDKをインストールしてください。

JDKのインストール方法に関しては、JDKのインストールマニュアルを参照してください。

#### 6.1.2. WebOTX運用管理ユーザのアカウント作成

WebOTX ASの運用をスーパーユーザ(root)とは別の運用管理ユーザに割り当てることが可能です。WebOTXのインストール中に運用管理ユーザのユーザ名とグループ名を指定しますので、WebOTXを運用管理ユーザで運用する場合は、UNIXユーザアカウントを事前に作成してください。

また、OSに予め定義されているスーパーユーザでWebOTX ASを運用することも可能です。この場合、WebOTXのプロセスは、スーパーユーザで起動します。

#### 6.1.3. WebサーバとWebコンテナとの連携について

静的コンテンツの処理と動的コンテンツの処理を別マシンや別プロセスに分離できるよう、Webサーバと連携することが可能です。Webコンテナ(Webアプリケーションの実行環境)が動作するWebOTX Application ServerとWebサーバを同一マシンで構成することを「共存トポロジ」、WebOTX Application ServerとWebサーバを異なるマシンで構成することを「分離トポロジ」と呼びます。

WebOTX Clientでは、「分離トポロジ」のWebサーバとして動作するマシンにおいて、以下のWebサーバの連携設定が行えます。連携可能なWebサーバの詳細は、WebOTX Application Serverのインストールガイド(Linux)の「2. 使用上の条件」の「2.1.3. 対応ソフトウェア」のWebサーバを参照してください。

- Apache HTTP Server

- Microsoft Internet Information Services (IIS) (\*)

(\*) 分離トポロジかつWebサーバの動作マシンがWindows(x64)の場合のみ。

Windows(x64)版のWebOTX Clientのインストールおよびアンインストールに関してはオンラインマニュアルに含まれるインストールガイド(Windows)を参照してください。

**Caution**

「分離トポロジ」のWebサーバとして動作するマシンにおいて、WebOTX Webサーバを利用するためにはWebOTX Application Serverのライセンスが必要です。

#### 6.1.4. 複数バージョンインストールを行う場合の注意

本製品は複数のWebOTX製品バージョンの同時インストールをサポートしていますが、対応する製品と共存可能な対象バージョンについて、「5.2. 複数バージョンインストール」に記載された内容を確認してください。既に他のバージョンのWebOTX製品がインストールされている場合は、その製品のサービス群を停止した後にインストール作業を行ってください。

## 6.2. インストール

本節では通常インストールに関して説明します。サイレントインストールに関しては「7. WebOTX Clientのサイレントインストール」を参照してください。

1. ログイン名 root でログインします。

2. マシンのDVD-ROM ドライブに「WebOTX Media (DVD) #1」を挿入してマウントします。

```
root> cd /
root> mount -t iso9660 /dev/cdrom /media/cdrom
```

3. DVD-ROMのマウント・ポイント・ディレクトリへ移動してください。

```
root> cd /media/cdrom
```

4. インストールスクリプトを起動してください。セットアップが始まります。

```
root> ./WOINST.SH
```

5. インストールする製品を選択します。WebOTX Clientの場合は「3」を入力します。

```
Please select one of the following WebOTX V10.4 products  
or enter "A" for additional installation of the installed product.
```

- 1. WebOTX Application Server Express
- 2. WebOTX Application Server Standard
- 3. WebOTX Client
- 4. WebOTX Manual
- A. Additional installation menu of the installed product
- C. Install Cancel

6. 製品を初めてインストールする場合、インストール・ベースディレクトリを入力します。  
ただし、製品を追加でインストールする場合は入力確認が表示されず、使用するインストール・ベースディレクトリを表示して次の手順に進みます。

インストール・ベースディレクトリは最大32byteまでで、空白やマルチバイト文字を含むことはできません。また、シンボリックリンクも使用できません。

他のバージョンのWebOTXがインストールされていない、あるいは他のバージョンのWebOTXが「/opt」以外をインストール・ベースディレクトリとして使用している場合、既定値として「/opt」が表示されます。製品のインストール先を変更する場合、インストール・ベースディレクトリを入力します。未入力のままEnterキーを押すと「/opt/WebOTX」配下にインストールされます。

```
Please input installation base directory of WebOTX products with  
an  
absolute path. (Default: /opt)  
(WebOTX product is installed in /opt/WebOTX by default.)
```

既に他のバージョンのWebOTXが「/opt」をインストール・ベースディレクトリとして使用している場合、既定値として「/opt/WebOTX104」が表示されます。製品のインストール先を変更する場合、インストール・ベースディレクトリを入力します。そのままEnterキーを押すと「/opt/WebOTX104/WebOTX」にインストールされます。

```
Please input installation base directory of WebOTX products with  
an  
absolute path. (Default: /opt/WebOTX104)  
(WebOTX product is installed in /opt/WebOTX104/WebOTX by default.)
```

入力したインストール・ベースディレクトリが存在しない場合、ディレクトリ作成確認のメッセージが表示されます。作成する場合は「y」を、作成しない場合は「n」を入力してください。

```
<インストール・ベースディレクトリ> does not exist.  
Would you like to make the directory? [y,n] (Default: y)
```

「n」を入力した場合、インストールのキャンセル確認が表示されます。

```
Would you like to cancel installation? [y,n] (Default: n)
```

この時に「y」を入力するとインストールスクリプトは終了します。「n」を入力した場合、インストール・ベースディレクトリの入力促進が再度表示されます。

#### Caution

インストール・ベースディレクトリとして「/opt」以外を入力、もしくは既定値として「/opt/WebOTX104」が表示されてそのままEnterキーを押下した場合、下記のメッセージが表示されます。

```
Note that only WebOTX products supporting multiple version  
installation can be installed additionally.
```

```
Please refer to the release memo or the manual of WebOTX product  
for details.
```

インストール・ベースディレクトリを「/opt」以外に変更する場合、複数バージョンインストールの対応製品のみ追加インストールが可能あり、未対応製品を追加インストールすることはできません。対応製品は[5.2 複数バージョンインストール]で確認してください。

#### Caution

既にWebOTX Utility (OTX104UTIL) パッケージが「/opt/share.nec」にインストールされている場合、インストール・ベースディレクトリとして「/opt」を使用することを表示して、次のインストール手順に進みます。 (※) インストール・ベースディレクトリは変更できません。

```
OTX104UTIL is already installed in /opt/share.nec.
```

```
/opt is used an installation base directory, it can not be changed.
```

また、WebOTX Utilityが「/opt/share.nec/v104」にインストール済みの場合は、以下のメッセージを表示した後、インストール・ベースディレクトリの入力促進が表示されます。

```
OTX104UTIL is already installed in /opt/share.nec/v104.
```

- 既定の設定でインストールするか選択します。

```
Would you like to install by default? (Default: y)
If you want to configure the installation in detail, please enter
'n'.
```

既定値でインストールを行う場合、「y」を選択し、手順(9)のインストール開始確認に進んでください。  
オプションを指定しながらセットアップする場合は「n」を選択して次に進んでください。

8. インストール時に本製品のパッチを適用する場合、「y」を選択します。パッチを適用しない場合、「n」を選択して次に進んでください。

```
Would you like to apply patch of the chosen product during
installation? [y,n]
(Default: n)
```

「y」を選択した場合、事前に対象マシンにダウンロードした本製品のパッチへの絶対パスを入力してください。

```
Please enter patch file name of the chosen product with an absolute
path.
```

入力されたパッチファイルのチェックが行われ、適用可能な場合は以下が表示されます。

```
This patch can be applied to the target machine.
```

#### Caution

インストール後にパッチを適用することも可能です。なお、パッチの入手にはWebOTXの保守契約が必要です。

9. 全ての選択が完了するとインストール開始確認が表示されます。

```
It will be installed with the following settings
```

```
Selected Product Name : WebOTX Client
Install Base Directory : /opt
Apply Patch File : none
```

```
*****
* Installation of WebOTX V10.4 on your computer. To continue, enter y.* 
* Enter q to exit the installation. [y, q] (Default: y) *
*****
```

設定を確認して問題ない場合、インストールを開始するため「y」を入力してください。

キャンセルするには「q」を入力してください。

キャンセルした場合、インストールスクリプトは終了します。再実行する場合は手順(4)のインストールスクリプトの実行からやり直してください。

10. パッケージがインストールされ、インストール完了すると環境構築ツール起動の確認が表示されます。

```
Installation completed.
```

```
Would you like to continue configuration? [y,n] (Default: y)
```

続けて環境構築を行う場合は「y」を入力してください。後で環境構築を行う場合は「n」を入力し、インストールスクリプトを終了してください。

この作業が完了したら「6.3. 環境構築」に進んでください。

### 6.3. 環境構築

1. 環境構築ツール(woconfig.sh)を起動してください。

インストールから連続して環境構築を行う場合、本項の作業は不要なため手順(3)のJDKインストール・ディレクトリの入力に進んでください。

```
root> cd <インストール・ベースディレクトリ>/WebOTX/bin
root> ./woconfig.sh
```

2. 環境構築を行う製品を選択します。メニュー表示からWebOTX Clientの番号を選択します。環境構築を中止する場合、「C」を選択して環境構築ツールを終了します。

```
Please select one of the following WebOTX v10.4 products for
configuration.
```

```
1. WebOTX Client
C. Cancel configuration
```

3. 製品で使用するJDKのインストール・ディレクトリを絶対パスで入力します。なお、製品を追加インストールする場合は表示されません。

環境変数「JAVA\_HOME」が設定されている場合、既定値としてその値が表示されます。そのままEnterキーを押すとWebOTX ASで使用するJDKとして設定されます。

```
Please input the directory of JDK with an absolute path.
(Default: $JAVA_HOME)
```

4. WebサーバとWebコンテナ(Webアプリケーションの実行環境)の連携実施の有無を選択します。連携を行わない場合は「n」を選択して次に進んでください。Web ApplicationとWebサーバを異なるマシンで動作させ、かつ本マシンをWebサーバ(Apache HTTP Serverのみ利用可能)として使用する場合は「y」を選択します。

```
Would you like to configure cooperation setting of Web Server and
Web Container? [y,n] (Default: n)
```

「y」を選択した場合、連携先情報(ホスト名、ポート番号)の設定サブメニューが表示されます。

```
Please enter the number of setting item menu to change value,
or enter N to proceed to the next. (Default : N)

1. Host name of the other machine to run Web Application []
2. Port number of AJP listener [8099]
3. Using AJP listener for process group [n]
4. Install directory of Apache HTTP Server 2.4 []
N. Proceed to the next
```

設定サブメニューでは以下の入力を行います。

連携先情報(ホスト名、ポート番号)の設定サブメニューで以下の入力してください。設定が完了したら「N」を入力して次に進んでください。

「1」を選択して連携先のWebOTX ASのホスト名またはIPアドレスを入力してください。※必須

エージェントプロセス用AJPリスナのポート番号を既定値(8099)から変更する必要がある場合、「2」を選択してポート番号を入力してください。

連携先のWebOTX ASがStandardの場合、「3」を選択して「y」を選択し、プロセスグループ用AJPリスナのポート番号を入力してください。ポート番号を既定値(20102)から変更しない場合、そのままEnterキーを押してください。

「4」がサブメニューに表示されている場合は選択して、Apache HTTP Serverのインストール・ディレクトリを入力してください。httpd.confファイルが(入力ディレクトリ)/conf配下となるように絶対パスで入力してください。

※表示される場合、必須

5. 設定メニューが表示されます。

WebOTX運用管理ユーザの設定変更を行う場合は「1」を入力し、5-1に進んでください。

設定変更が完了、または既定値のまま環境構築を行う場合、「N」を入力して次の環境構築メニューに進んでください。

```
Please enter the number of setting item menu to change value,  
or enter N to proceed to the next. (Default : N)
```

- 1. Setting item menu of "WebOTX Operation User"  
Configure as WebOTX Operation User [n]
- N. Proceed to the next

5-1. WebOTX運用管理ユーザを設定する場合は「y」、設定せずrootのまととする場合は「n」を入力してください。

```
Would you like to configure as "WebOTX Operation User"? (Default: y)
```

「y」を選択すると、続けてWebOTX運用管理ユーザ名とそのユーザアカウントが属するグループ名を入力します。

```
Enter the user name that administers the WebOTX server.
```

```
Enter the group name that administers the WebOTX server.
```

設定完了すると設定メニューに戻ります。

6. 環境構築メニューが表示されます。

現在の設定で環境構築を行う場合は「1」を選択し、次の環境構築の実行確認に進んでください。

設定変更を行う場合は「B」を入力し、手順(3)のJDKインストール・ディレクトリの入力に戻ります。

環境構築を中止する場合、「C」を選択して環境構築ツールを終了します。

```
Please enter the number of the function to be executed,  
or enter B to back to the previous setting menu.
```

- 1. Start the configuration
- B. Back to the setting menu
- C. Cancel

7. 環境構築の実行確認で、設定内容を確認します。

```
It will be configured with the following settings
Selected Product Name [WebOTX Client]

JDK installation directory [/usr/java/jdk1.8.0_xxx]
Configure as "WebOTX Operation User" [n]

*****
* Configuration of WebOTX V10.4 on your computer. To continue, enter y.* 
* Enter q to exit the configuration. [y, q] (Default: y) *
*****
```

環境構築を開始するには「y」を入力してください。キャンセルするには「q」を入力してください。

キャンセルした場合、環境構築ツールは終了します。再実行する場合は手順(1)の環境構築ツールの実行からやり直してください。

8. 環境構築が実行されます。以下のメッセージが表示されたら環境構築は完了です。

```
Configuration completed.
```

9. WebOTX Clientの動作環境が正しく作成されているか確認するため、「<インストール・ベースディレクトリ>/WebOTX/ant\_setup.log」ファイルを開いてエラーメッセージが記録されていないかチェックしてください。
10. これで環境構築は完了です。

## 7. WebOTX Clientのサイレントインストール

本章では、サイレントインストールについて説明します。サイレントインストールでは、サイレントインストール用の設定ファイルをインストーラ(WOINST.SH)に読み込ませて実行します。設定ファイルを作成／確認する機能及び設定ファイルの内容に従いインストール・環境構築を実行する機能を提供します。

### Caution

サイレントインストールを行う場合も「6.1. インストール前の作業」を実施する必要があります。

### 7.1. 設定ファイルの作成

以下のコマンドを実行してサイレントインストール用の設定ファイルを作成します。

```
root>./WOINST.SH --make-silent-file=<設定ファイルの絶対パス名>
```

```
root>./WOINST.SH -m <設定ファイルの絶対パス名>
```

インストールスクリプトと環境構築ツールが順次実行され、各選択肢に対して入力を行うと、入力した値が指定した設定ファイルに保存されます。

設定ファイルの作成に関して次の点に留意してください

- ・「#」はコメントとして扱うため、「#」を含む入力は行わないでください。
- ・「"」「\$」「¥」はメタ文字として扱うため、「"」「\$」「¥」を含む入力は行わないでください。
- ・ライセンスキーはサイレントインストールの実行時にオプションとして指定します。

### 7.2. 設定ファイルの確認

インストール対象マシンにおいてサイレントインストール用の設定ファイルがインストールと環境構築に利用可能か、以下のコマンドを実行して確認します。

```
root>./WOINST.SH --check-silent-file=<設定ファイルの絶対パス名>
```

```
root>./WOINST.SH -c <設定ファイルの絶対パス名>
```

上記コマンド実行後は、サイレントインストール実行時と同じようにインストールスクリプトと環境構築ツールにて設定ファイルから読み込んだプロパティの値のチェックを行い、問題なければチェックが正常終了したことを表示して終了します。

設定ファイルの確認に関して次の点に留意してください

- 設定ファイルにオプションのプロパティが存在しない、コメントアウトされている、プロパティの値が空の場合はデフォルト値が使用されます。
- 設定ファイルの確認ではWebOTXプロセスの起動チェックは行いません。
- JAVA\_HOMEが環境変数と設定ファイルのプロパティの両方に設定されている場合、設定ファイルのプロパティが優先されます。  
※追加製品インストールの場合はWebOTXの定義情報(asenv.conf)からAS\_JAVAプロパティの値を取得してJAVA\_HOMEとして使用するため、環境変数と設定ファイルのプロパティは共に使用されません。
- 設定ファイルのインストール・ベースディレクトリは最初の製品のインストール時のみ使用され、追加製品インストールの場合は使用されません。また、設定ファイルのインストール・ベースディレクトリのディレクトリが存在しない場合は「作成」で表示されます。
- 以下のケースに該当する場合、メッセージ表示してインストールスクリプトまたは環境構築ツールは途中で終了します。
  - 設定ファイルに必須のプロパティが存在しない場合
  - 設定ファイルのオプションのプロパティの値が不正な場合
  - 最初の製品インストール時にJAVA\_HOMEが環境変数と設定ファイルのプロパティのどちらにも設定されていない場合
  - 設定ファイルのプロパティで指定されているWebOTX運用管理ユーザとグループがインストール対象マシンに存在しない場合
  - 最初の製品のインストール時にOTX104UTILのインストール・ディレクトリが"/opt/share.nec/v104"、かつ設定ファイルのプロパティで指定されているインストール・ベースディレクトリが"/opt"の場合
  - インストール済の他バージョンのWebOTXのインストール・ベースディレクトリ/opt、かつ設定ファイルのプロパティで指定されているインストール・ベースディレクトリが"/opt"の場合

### 7.3. サイレントインストールの実行

以下のコマンドでサイレントインストール用の設定ファイルを使用してインストールと環境構築を実行します。

```
root>./WOINST.SH --silent-file=<設定ファイルの絶対パス名>
```

```
root>./WOINST.SH -s <設定ファイルの絶対パス名>
```

上記コマンド実行後は、インストールスクリプトと環境構築ツールにて設定ファイルから読み込んだプロパティの値を使用してインストールと環境構築が実行されます。

サイレントインストール時にインストールのみで環境構築を行わない場合、上記コマンドの後に"--mode=install-only" を追加して実行してください。

サイレントインストールに関して次の点に留意してください

- 設定ファイルにオプションのプロパティが存在しない、コメントアウトされている、プロパティの値が空の場合はデフォルト値が使用されます。
- JAVA\_HOMEが環境変数と設定ファイルのプロパティの両方に設定されている場合、設定ファイルのプロパティが優先されます。  
※追加製品インストールの場合はWebOTXの定義情報(asenv.conf)からAS\_JAVAプロパティの値を取得してJAVA\_HOMEとして使用するため、環境変数と設定ファイルのプロパティは共に使用されません。
- 設定ファイルのインストール・ベースディレクトリは最初の製品のインストール時のみ使用され、追加製品インストールの場合は使用されません。また、設定ファイルのインストール・ベースディレクトリのディレクトリが存在しない場合は作成します。
- パッチ適用機能は利用できません。環境構築後に適用してください。
- 以下のケースに該当する場合、メッセージ表示してインストールスクリプトは途中で終了します。
  - WebOTXのプロセスが起動している場合
  - 設定ファイルに必須のプロパティが存在しない場合
  - 設定ファイルのオプションのプロパティの値が不正な場合
  - 最初の製品インストール時にJAVA\_HOMEが環境変数と設定ファイルのプロパティのどちらにも設定されていない場合
  - 設定ファイルのプロパティで指定されているWebOTX運用管理ユーザとグループがインストール対象マシンに存在しない場合
  - 最初の製品のインストール時にOTX104UTILのインストール・ディレクトリが"/opt/share.nec/v104"、かつ設定ファイルのプロパティで指定されているインストール・ベースディレクトリが"/opt"の場合

- インストール済の他バージョンのWebOTXのインストール・ベースディレクトリ/opt、かつ設定ファイルのプロパティで指定されているインストール・ベースディレクトリが"/opt"の場合

#### 7.4. 設定ファイルのプロパティ一覧

サイレントインストールの設定ファイルのプロパティは次の通りです。

プロパティ名	プロパティ値の設定内容	区分	備考
OTX_FORMAT_VESRION	1040(*1)	必須	サイレントインストール設定ファイルのフォーマットバージョン(固定値)
OTX_INST_BASE	インストール・ベースディレクトリ	オプション	絶対パスで指定 省略時はマシン環境に従つてデフォルトのインストール・ベースディレクトリ("/opt" または "/opt/WebOTX104")を使用。 ※追加製品インストール時は未使用。
OTX_PRODUCT	cli (WebOTX Client)	必須	
OTX_INST_TYPE	default (デフォルト) custom (カスタム)	必須	default (デフォルト)の場合、デフォルト値でオプション機能をインストール ※Clientで利用可能なオプション機能はありません
JAVA_HOME	JDKへのインストールパス	オプション	絶対パスで指定 設定時は環境変数の値より優先して使用。省略時は環境変数の値を使用。 <u>環境変数の値が未設定の場合は必須。</u> ※追加製品インストール時は未使用
OTX_ADMIN_USER	WebOTX運用管理ユーザ	オプション	省略時はWebOTX運用管理ユーザの設定を行わない
OTX_ADMIN_GROUP	WebOTX運用管理ユーザのグループ	オプション	<u>OTX ADM USER定義されている場合は必須</u>
OTX_TOPOLOGY_TYPE	co-located (共存トポロジ) separate-websv (分離トポロジ(Webサーバ)) separate-webcont (分離トポロジ(Webアプリケーション))	オプション	省略時はWebサーバ連携を行わない。 Webサーバ連携時はseparate-websv (分離トポロジ(Webサーバ))のみ設定可 ※固定値
OTX_WEBSV_TYPE	websv24 (WebOTX)	オプ	省略時はWebサーバ連携を

	Webサーバ2.4) apache24(Apache HTTP Server 2.4) intwebsv(内蔵Webサ ーバ)	ショ ン	行わない。 Webサーバ連携時に apache24(Apache HTTP Server 2.4)のみ設定可 ※ 固定値
OTX_WEBSV_PATH	Webサーバ・インスト ール・ディレクトリへ の絶対パス	オプ ション	OTX_WEBSV_TYPEの値 がapache24の場合のみ設定
OTX_COOPERATION_HOST	連携先ホスト名また はIPアドレス	オプ ション	OTX_TOPOLOGY_TYPE の値がseparate-websvの場 合のみ設定
OTX_COOPERATION_AJP_ LSN_PORT	連携先エージェント プロセス用AJPリス ナのポート番号	オプ ション	OTX_TOPOLOGY_TYPE の値がseparate-websvの場 合のみ設定
OTX_COOPERATION_AJP_ LSN_PORT_PG	連携先プロセスグル ープ用AJPリスナの ポート番号	オプ ション	OTX_TOPOLOGY_TYPE の値separate-websv、かつ 連携先のWebOTX ASが Standardの場合のみ設定。

\*1 インストール対象製品追加やプロパティに関する変更等のサイレントインストール設定ファイルのフォ  
ーマット変更時に、フォーマットバージョンの値は更新されます。

## 8. WebOTX Clientのアンインストール

本章では、WebOTX Clientのアンインストール方法について説明します。

### 8.1. アンインストール前の作業

運用管理コマンドやWebOTXのインストール・ディレクトリ配下のライブラリを参照しているアプリケーションが動作している場合はすべて停止してください。

#### Caution

複数バージョンのWebOTXをインストールしている場合、他バージョンのWebOTXのサービス群を停止していることを確認した後にアンインストール作業を行ってください。他バージョンのWebOTXの操作手順については、ご利用になっているバージョンのマニュアルを参照してください。

### 8.2. アンインストール

本製品は複数のインストール・パッケージから構成されています。アンインストール・スクリプトを利用してWebOTXパッケージをアンインストールします。手順は次のとおりです。

1. ログイン名 `root` でログインします。
2. アンインストール・スクリプトが配置されたディレクトリに移ります。

```
root> cd /opt/share.nec/bin
```

#### Caution

WebOTX Clientはライセンス登録不要なため、上記フォルダ及び後述する`wouninst.sh`が存在しない場合があります。

WebOTX Media(DVD) #1のルート直下にも`wouninst.sh`が格納されていますので、WebOTX Media(DVD) #1をマウントして、マウント・ポイント・ディレクトリへ移動してください。

インストール・ベースディレクトリを「`/opt`」から変更している場合は「`/opt/share.nec/v104/bin`」に移動してください。

3. アンインストール・スクリプトを実行します。

```
root> ./wouninst.sh
```

上記スクリプトのコマンドライン・オプションに「-s」を指定すると、アンインストール確認を省いてアンインストールが始まります。  
(※)WebOTXの定義情報も削除されます。

4. 複数のWebOTX製品をインストールしている場合、以下のメニューが表示されます。  
WebOTX製品(\*)を一つだけインストールしている場合、本項の作業は不要なため手順(5)のアンインストール確認に進んでください。

全てのWebOTX製品(\*)をアンインストールする場合は「1」を選択してください。  
アンインストールする製品を選択する場合は「2」を選択してください。  
アンインストールを中止する場合、「C」を選択してアンインストール・スクリプトを終了します。

(\*)対象はWOINST.SHでインストールする製品(WebOTX AS Express/Standard, Client)

```
Please select the uninstallation method of the WebOTX v10.4
products. (Default: 1)
```

- 1. Uninstall all products
- 2. Uninstall one selected product
- C. Uninstall Cancel

「2」を選択した場合、アンインストールを行う製品を選択します。メニュー表示からWebOTX Clientの番号を選択します。アンインストールを中止する場合、「C」を選択してアンインストール・スクリプトを終了します。

```
Please select one of the following WebOTX v10.4 products for
uninstalltion.
```

- 1. WebOTX Application Server Standard
- 2. WebOTX Client
- C. Cancel uninstalltaion

5. アンインストール確認のメッセージが表示されます。

```
It will be uninstalled with the following settings
```

```
Uninstall target : all products (*) 指定製品のみアンインストールの場合  
は製品名
```

```
* All domains will be deleted.
```

```
*****  
* Uninstall the WebOTX V10.4 software on your computer. *  
* To continue, enter 'y'. Enter 'q' to exit this. [y, q] *  
*****
```

アンインストールを開始するには「y」を入力してください。キャンセルするには「q」を入力してください。

キャンセルした場合、アンインストール・スクリプトは終了します。再実行する場合は、アンインストール・スクリプトの実行から行ってください。

6. アンインストール対象のWebOTX製品の定義情報を削除し、パッケージを検索してアンインストールします。  
※指定製品のみアンインストールの場合、インストールされている他のWebOTX製品で使用している定義情報の削除とパッケージのアンインストールは行いません。
7. 続いて、WebOTX Utility (OTX104UTIL) パッケージを手動でアンインストールしてください。  
※WebOTX Utilityパッケージがインストールされていない場合、本項の作業は不要です。

```
root> rpm -e OTX104UTIL
```

この作業が終わったら次の「アンインストール後の作業」に進んでください。

### 8.3. アンインストール後の作業

アンインストールを完了した後もrootユーザで継続して行う作業があります。

#### 8.3.1. 定義情報のファイル削除

WebOTXの定義情報のファイルが残っている場合があります。

<インストール・ベースディレクトリ>/WebOTX/\*.log

これらのファイルは削除を行ってください上記以外にもWebOTXの定義情報ファイルが残っている場合がありますが同様に削除してかまいません。

### 8.3.2. Webコンテナと外部Webサーバとの連携の設定解除

WebOTX Webサーバ以外の外部WebサーバとWebコンテナを連携設定していた場合、WebOTXをアンインストールしても外部Webサーバには連携設定の内容が残っているため、その定義を削除しなければなりません。連携設定を解除せずそのままWebサーバを使い続けた場合、システムによってはWebサーバが正常に起動しなくなる可能性があります。下記の作業を行ってください。

Webサーバの連携設定の解除方法を下記に説明します。

#### ● Apache HTTP Server

このWebサーバのインストール・ディレクトリのconfディレクトリ下にあるhttpd.confファイルをエディタで編集します。「# TM\_WS\_PLUGIN-start」から「# TM\_WS\_PLUGIN-end」までの記述を削除してください。

```
# TM_WS_PLUGIN-start

include "<WEBOTX_DOMAIN_HOME>/config/WebCont/mod_jk-24.conf"

# TM_WS_PLUGIN-end
```

これでアンインストール作業は完了です。

## 9. インストーラ圧縮ファイル

リモートでの作業などDVD-ROMを使用できない場合、インストーラ圧縮ファイル(tar.gz形式)を利用してインストールすることができます。インストーラ圧縮ファイルの作成は、インストーラ圧縮ファイル作成スクリプト(WOMKTGZ.SH)を使用して行います。

インストーラ圧縮ファイルの作成手順は次のとおりです。

1. ログイン名 root でログインします。

```
login: root
```

2. マシンのDVD-ROMドライブに WebOTX メディアを挿入しDVD-ROMドライブをマウントします。自動的にマウントされない場合には次のコマンドでマウントしてください。

```
root> cd /
root> mount -t iso9660 /dev/cdrom /media/cdrom
```

3. DVD-ROMのマウント・ポイント・ディレクトリへ移動してください。

```
root> cd /media/cdrom
```

4. インストーラ圧縮ファイル作成スクリプトを起動してください。

```
root> ./ WOMKTGZ. SH
```

5. スクリプトの指示にしたがって、インストールする製品を選択してください。

```
Please select one of the following WebOTX V10.4 products:
```

1. WebOTX Application Server Express
2. WebOTX Application Server Standard
3. WebOTX Client (for Linux(x64))
99. Install Cancel

Express の場合は「1」、Standard の場合は「2」を入力します。  
Client の場合は、「3」を入力します。

6. インストーラ圧縮ファイルの出力先ディレクトリを絶対パスで入力します。

```
Please enter the directory name with an absolute path. (Default: /tmp)
```

ディレクトリが存在しない場合、ディレクトリ作成確認の画面が表示されます。

作成する場合は「y」を、作成しない場合は「n」を入力してください。  
作成しない場合、インストーラ圧縮ファイルの出力先ディレクトリの確認画面が再度表示されます。

**Would you like to make the directory? [y, n] (Default: y)**

7. インストーラ圧縮ファイルの作成開始確認画面が表示されます。

```
*****  
* Making a compressed file for installation of WebOTX V10.4 product.  *  
* To continue, enter y. Enter q to exit. [y, q] (Default: y)  *  
*****
```

インストールを開始するには「y」を入力してください。 キャンセルするには「q」を入力してください。

キャンセルした場合はインストールスクリプトが終了します。 再実行する場合は、手順(4)のインストーラ圧縮ファイル作成スクリプトの実行からやり直してください。

8. 選択した製品のインストーラ圧縮ファイルが以下のファイル名で指定ディレクトリに作成されます。

製品名	ファイル名
WebOTX Application Server Express	webotx_as_exp_(PF名)_(バージョン番号).tar.gz
WebOTX Application Server Standard	webotx_as_std_(PF名)_(バージョン番号).tar.gz
WebOTX Client	webotx_cli_(PF名)_(バージョン番号).tar.gz

\*1 (PF名)にはLinux(x64)は"linux\_x64"が入ります。

\*2 (バージョン番号)には"1040"が入ります。

9. DVD-ROM をアンマウントします。

```
root> cd /  
root> umount /media/cdrom
```

インストーラ圧縮ファイルを利用するインストール手順は次のとおりです。

※インストーラ圧縮ファイルは対象マシンに転送済であることを前提とします。

1. ログイン名 root でログインします。

```
login: root
```

2. インストーラ圧縮ファイルを転送したディレクトリに移動して、以下のコマンドで展開してください。

※移動先ディレクトリにて別のインストーラ圧縮ファイルを展開済の場合、他のディレクトリで展開してください。

```
root> gzip -dc (インストーラ圧縮ファイル) | tar xf -
```

3. 展開されたインストールスクリプトを起動すると、インストール可能な製品が表示されます。

インストールする場合は「y」を入力してください。セットアップが始まります。 中止する場合は「n」を入力してください。

```
root> ./WOINST.SH
```

You can install the following product from the result of the expansion of the compressed file.

(インストール可能な製品名)

Would you like to continue? [y, n] (Default: y)

4. 以降はDVD-ROMからのインストールと同じ手順でインストールを行います。  
各製品のインストールガイドを参照してください。

**Caution**

インストーラ圧縮ファイル展開後に統合インストーラ(WOINST.SH)からインストール可能な製品は、インストーラ圧縮ファイル作成時に指定した製品のみです。複数製品のインストールを行う場合、それぞれのインストーラ圧縮ファイルを作成してください。

複数のインストーラ圧縮ファイルの同一ディレクトリの展開は未サポートです。異なるディレクトリに展開した後、統合インストーラ(WOINST.SH)を起動してください。

インストーラ圧縮ファイルの展開及びインストールは、空白を含まないディレクトリで行ってください。空白を含むディレクトリで展開してインストールした場合はエラーとなり、正常にインストールすることができません。

## 10. 注意・制限事項

WebOTX Clientの注意事項は以下の通りです。

- アンインストール後の不要なファイルの削除  
アンインストール時、インストールフォルダにディレクトリやファイルが残る場合があります。アンインストール完了後、すべて削除してください。
- 物理サーバ/仮想マシンにおいてWebOTX Clientをインストール/アンインストール時に、コンテナ上でWebOTXのコンテナ向け製品が同じインストール・ベースディレクトリで起動しているとWebOTXが起動中であることが表示(\*)され、インストール/アンインストールがキャンセルされます。  
コンテナ上で起動しているWebOTXのコンテナ向け製品を停止するか、異なるインストール・ベースディレクトリを使用してインストール/アンインストールを行ってください。

(\*)WebOTX Clientと同じバージョンのWebOTXが起動していることが表示されますが、コンテナ向け製品に関しては別バージョンの場合があります。

その他の注意・制限事項については、オンラインマニュアルを参照してください。